



(3) 大熊町ゼロカーボンビジョン (概要)

ゼロカーボンを復興の軸とした新しいまちづくりを進めたいと考えています。
大熊町の未来のため、地球のため、一緒に取り組みませんか？！



1. ビジョンの目的

基本理念

- 原発事故により全町避難を経験した町だからこそ、気候変動という世界共通の課題解決に取り組みます。
- 将来大熊町が、原発事故の町ではなく、「ゼロカーボンタウンの先進地」として、私たちの子ども・孫たちが誇りをもって語れる人と地球にやさしいまちづくりを進めます。

計画期間

- 2021年度～2050年度の30年間とします。

ゼロカーボンとは？

- 二酸化炭素の排出が実質ゼロ（排出量－吸収量＝0）のことで、カーボンニュートラルや脱炭素と言うこともあります。

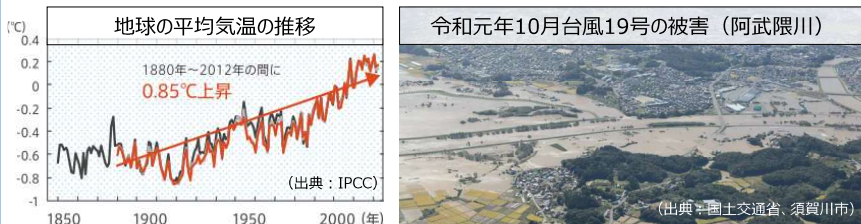
<基本戦略～るるる大熊～>



ゼロカーボンの推進⇒大熊町の復興

2. もし、何もしなかったらどうなる？

地球温暖化の進行とその影響



地球の平均気温は、温暖化以前と比べて既に約1℃上昇しています。既に、異常気象や大型台風などが増加しつつあり、今後さらに影響が甚大化するおそれがあります。

2050年の大熊町 (予測)

- ① 二酸化炭素排出量：7.5万トン
2020年の排出量4.3万トンから1.7倍に増加し、温暖化の進行に歯止めをかけるところか、悪化させる側になってしまいます。
- ② エネルギー代金の流出：累積で約800億円
30年間、町内全体での灯油や電気購入の合計を推計しました。人口4千人とすると一人当たり2千万円になります。一方で、再エネの地産地消が浸透すれば、この経費を地域経済の活性化に転じることができます。

おお、ちゃんと対策しないとやばいぞ。

3. ゼロカーボンへの道のり

ゼロカーボン達成に向けた道のり イメージ

大熊町は、全国に先駆けて
ゼロカーボン達成を目指します

ゼロカーボンへの3ステップ

- ① エネルギー消費量を削減 & 電化
- ② 再エネ電気を地産地消
- ③ 化石燃料消費が減ってCO2削減

今後の達成目標

2020年 ゼロカーボン宣言
2030年 電力の100%再エネ化
2040年 ゼロカーボン達成
2050年 カーボンマイナス達成

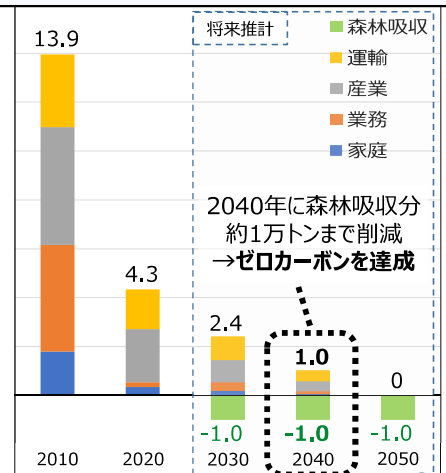
再エネ導入目標 (累計、仮)

太陽光 : 60
風力 : 30
その他 (小水力、波力、バイオマス)

合計 約90MW

※発電規模、場所、地域共生、安全性確認など今後検討

CO2削減の推計 (万トン)



大熊町には約5,000haの森林があり、樹木の光合成によって、毎年約1万トンのCO2吸収が見込まれます。



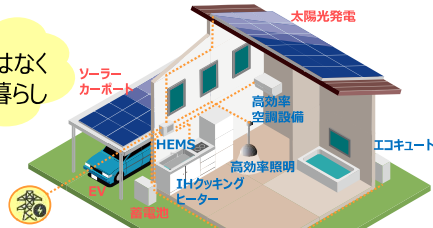
4. ゼロカーボンで暮らしはどうなる？

エネルギー効率の良い建物の導入などによって、快適なライフスタイルへの転換を進めます。また、ゼロカーボンを生かしたまちづくり、産業創出を行います。

大熊に住んでみたい、働いてみたいと思えるまちづくりを進めます。ゼロカーボンはそのきっかけです。



「やせ我慢」ではなく
便利で豊かな暮らし



〇おおくまゼロカーボン住宅

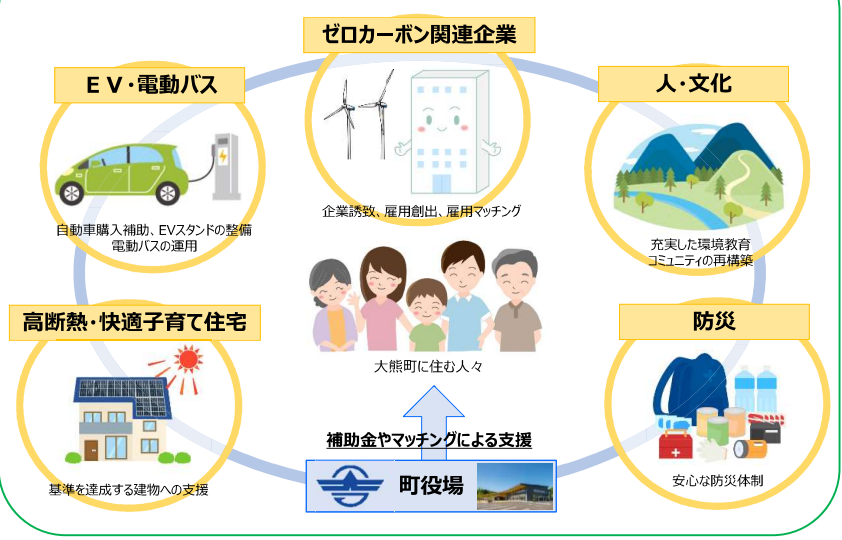
- ☆省エネで停電時にも自立できる充実設備
- ☆冬温かくヒートショックを防ぐ健康な住まい



〇下野上スマートコミュニティ

- ☆ゼロカーボンの象徴として下野上のまちづくりを推進
- ☆便利で住みやすく、災害にも強いまちづくりを目指す

ゼロカーボンによる新しい暮らし



5. ゼロカーボン実現に向けた具体的な取り組み

取組方針① 再生可能エネルギーの最大限導入

需給一体型再生エネの導入／大規模・安定電源の開発



取組方針④ ゼロカーボンを源泉としたまちづくり

駅前スモコ、RE100産業団地の整備、移住・定住促進、企業誘致



取組方針② 地産地消システムの構築

地域新電力による統合的・有機的なしくみづくり



取組方針⑤ 豊かな森里川海との共生

持続可能な森林経営の推進／グリーンインフラの整備



取組方針③ 快適で省エネなライフスタイル

おおくまゼロカーボン建物の推進／おおくまゼロカーボン住宅の推進
モビリティのEV・FCV化／公共交通のスマート化／環境行動推進



取組方針⑥ 官民一体の推進体制

推進協議会の設立・運営



大型風力発電

風況の良い山の稜線を
ウインドファーム化

地産地消システムの構築

地域新電力による統合的・有機的なしくみで企業進出支援

ゼロカーボンを源泉としたまちづくり

駅前スマートコミュニティ事業

波力発電

再生可能エネルギーの最大限導入

大型風力発電
海岸沿の公園内・洋上
に大規模風力発電

大熊町の将来像 (イメージ)

※導入施設や場所は決まったものではありません。

豊かな森里川海との共生

持続可能な森林経営の推進
グリーンインフラの整備

木質バイオマス利用

地域の木質資源を活用し、
発電利用や施設へ熱供給

小水力/マイクロ水力

町内の水の流れを利用した
マイクロ水力発電

快適で省エネなライフスタイル

おおくまゼロカーボン建物の推進
おおくまゼロカーボン住宅の推進 等
町内の建物は、エネルギー消費を抑えた
ZEB/ZEH化を強力に推進

需給一体型再生可能エネルギーの導入
モビリティのEV/FCV化
公共交通のスマート化